

2025年度未就業調査集計結果

目的: 長野県ナースセンターに登録している看護職および各種相談事業参加者などの就業実態を把握し、看護職の再就職と就業の継続を促進する

対象: eナースセンターの求職登録者のうち長野県内への就業を希望し、就職活動を行っている者(2022年4月1日から2025年3月31日登録者 248名)及び福祉の職場説明会・看護職のための福祉の職場相談会・巡回相談・週イチ相談等の参加者でeナース登録のない者(60名)計308名

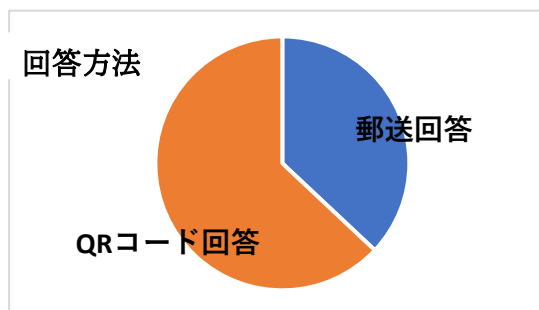
期間: 2024年8月1日から2025年9月30日

方法: 対象者に自記式質問調査票を郵送配付、郵送による回答と二次元コードによる回答を集計した

1.回収状況

330名に郵送したが宛先不明等により連絡がつかず308名を対象とした。

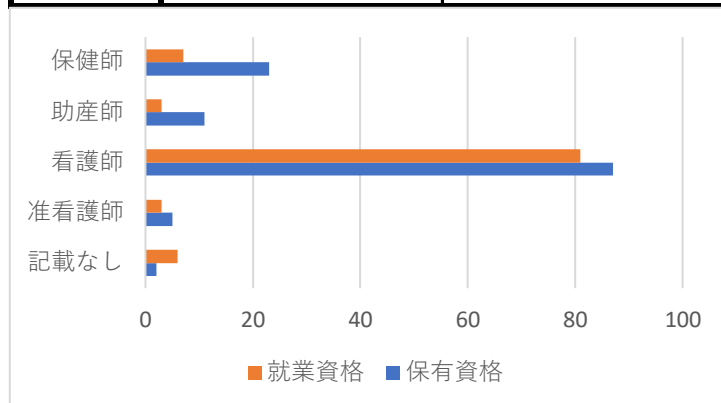
		2023年度		2024年度		2025年度	
対象者数	回収率	381	23.6%	363	32.5%	308	32.4%
郵送での回答		52	57.8%	48	40.7%	37	37.0%
QRコードでの回答		38	42.2%	70	59.3%	63	63.0%
回答数合計		90	100.0%	118	100.0%	100	100.0%



2023年度の回収率は、対象者331名で85名(25.7%)であった。2024年度の回収率は、対象者363名で118名(32.5%)であった。2025年度の回収率は、対象者308名で100名(32.4%)であった。回答方法については、二次元コードでの回答が多い傾向がみられた。

2.保有している免許(複数回答)と就業を希望している職種

	保有している免許(複数回答)	就業希望の職種
保健師	23	7
助産師	8	3
看護師	87	81
准看護師	10	3
未回答	2	6
合計	130	100



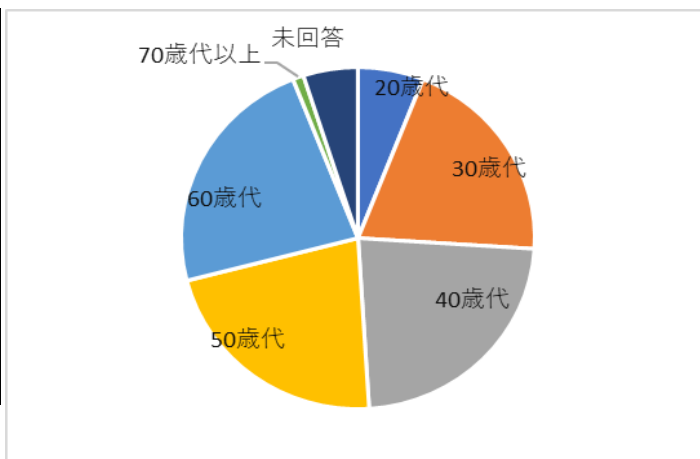
保健師免許を保有している看護職は23名いたが、保健師としての就労希望は7名であった。助産師免許を保有している看護職は8名で、3名が助産師としての就労希望であった。看護師免許のみの保有者は、ほぼ看護師での就労を希望していた。准看護師については、看護師免許保有者は看護師での就労を希望していた。3名は准看護師免許のみの保有者であった。

3.年齢

	人数	割合
20歳代	6	6.0%
30歳代	20	20.0%
40歳代	23	23.0%
50歳代	22	22.0%
60歳代	23	23.0%
70歳代以上	1	1.0%
未回答	5	5.0%
合計	100	100.0%

平均年齢 48.4

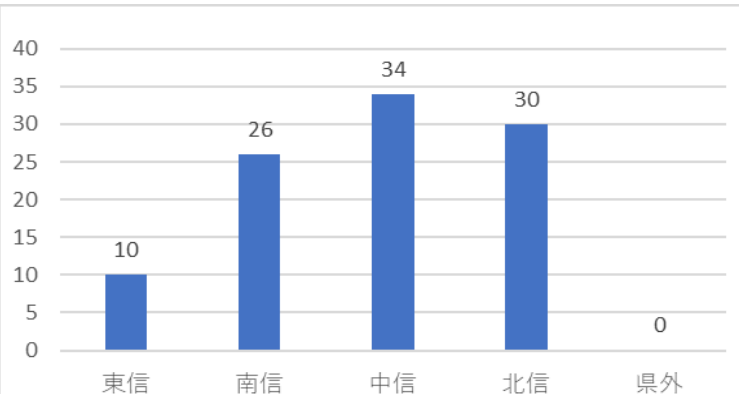
標準偏差 12.8



年齢は、25歳から71歳までで、平均年齢は48.4±12.8歳であった。30歳代・40歳代・50歳代・60歳代が各約20%以上を占めていた。

4.所在地

地区	人数	割合
東信	10	10.0%
南信	26	26.0%
中信	34	34.0%
北信	30	30.0%
県外	0	0.0%
合計	100	100%



所在地で最も多かったのは中信地区で34名(34.0%)であった。次いで北信地区30名(30.0%)であった。

5.現在の就業状況

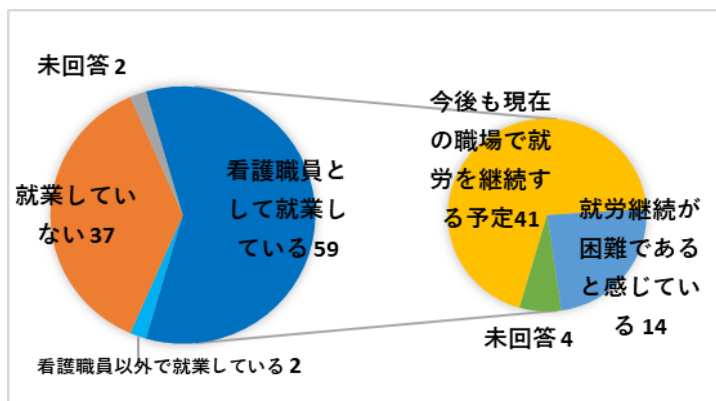
就業状況	人数	割合
看護職員として就業している	59	59.0%
看護職員以外で就業している	2	2.0%
就業していない	37	37.0%
未回答	2	2.0%
合計	100	100.0%

現在の就業状況は、看護職として就業している方は59名(59%)で、就業していない方が37名(37%)と就業中の方が多い結果となった。看護職以外で就業中の方は2名(2%)であった。現在就業中の59名のうち、今後も現在の職場で就労を継続する予定であると回答した方が41名(69.5%)で約7割の方が現在の職場での継続を考えていた。就労継続が困難と感じている方は14名(23.7%)、未回答が4名(6.8%)であった。

5.-1看護職として就業中の方の就業継続の意向について(n=59)

就業継続意向	人数	割合
今後も現在の職場で就労を継続する予定	41	69.5%
就労継続が困難であると感じている	14	23.7%
未回答	4	6.8%

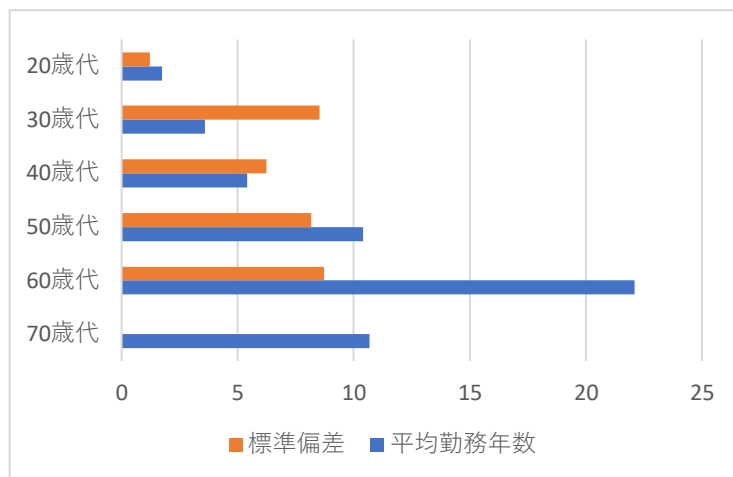
グラフは次ページ



6.看護職としての経験年数

	平均勤務年数	標準偏差
20歳代	1.75	1.21
30歳代	3.6	8.52
40歳代	5.4	6.24
50歳代	10.4	8.17
60歳代	22.1	8.71
70歳代	10.67	0
平均	8.27	5.48

未回答者:1名



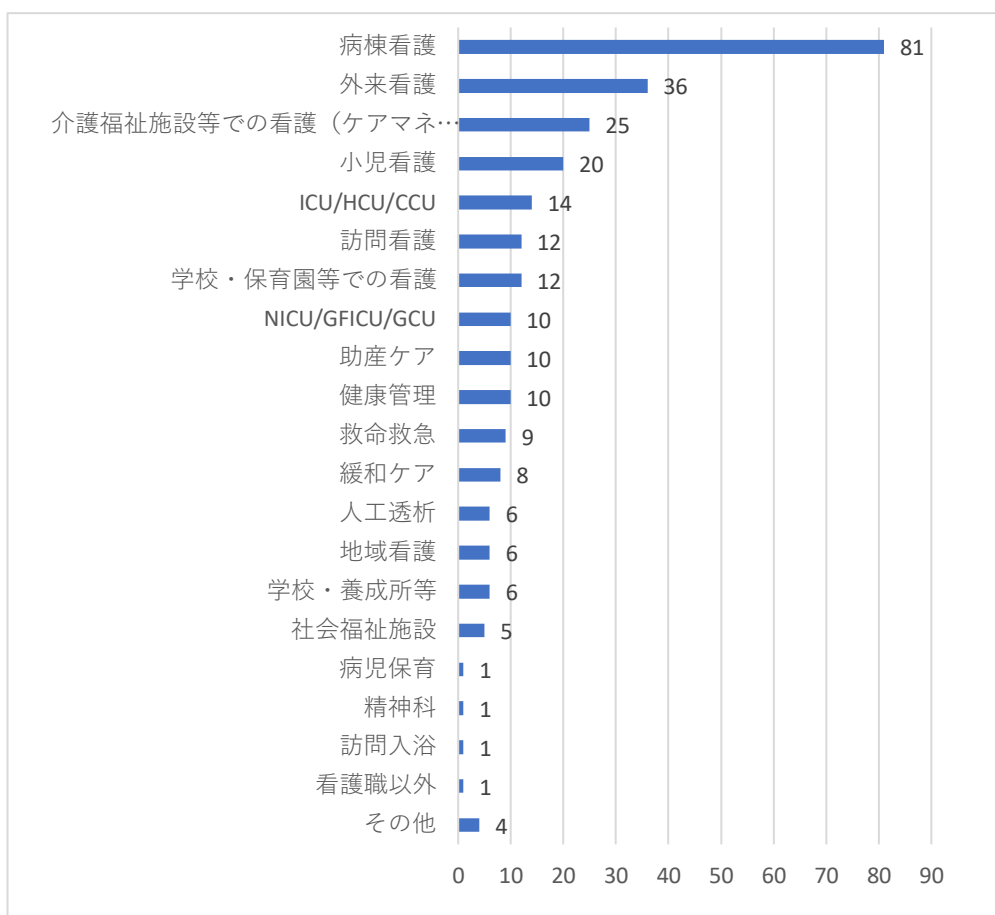
全体の平均経験年数は、8.27年で標準偏差は5.48であった。

7.看護職として経験した看護領域(複数回答 n=100)

経験した看護領域	人数	割合
病棟看護	81	80%
外来看護	36	36%
介護施設等での看護(ケアマネ含む)	25	25%
小児看護	20	20%
ICU・CCU・HCU	14	14%
訪問看護	12	12%
学校・保育園等での看護	12	12%
NICU・GFICU・GCU	10	10%
助産ケア	10	10%
健康管理	10	10%
救命救急	9	9%
緩和ケア	8	8%
人工透析	6	6%
地域看護	6	6%
学校・養成所	6	6%
行政(市町村)	5	5%
社会福祉施設	5	5%
病児保育	1	1%
精神科	1	1%
訪問入浴	1	1%
看護職以外	1	1%
その他	4	4%
未回答	13	13%

最も経験の多い看護領域は、病棟看護で80名(80%)が経験をしており、次いで外来看護36名(36%)、介護施設での看護(ケアマネ含む)が25名(25%)であった。次いで小児看護12名(12%)。昨年の上位4領域順番に変化はなかった。

グラフは次ページ



8.現在の就業先または最後に就業していた施設(n=100)

施設	人数	割合
病院	35	35.0%
診療所(クリニック)	7	7.0%
通所介護	7	7.0%
その他の介護施設・福祉施設	5	5.0%
訪問看護ステーション	5	5.0%
行政(市町村等)	5	5.0%
保育施設	4	4.0%
小学校・中学校・高等学校(養護教諭)	4	4.0%
特別養護老人ホーム	3	3.0%
学校・養成所等	3	3.0%
その他	3	3.0%
介護老人保健施設	2	2.0%
企業・事業所	2	2.0%
社会福祉施設(障がい者施設など)	2	2.0%
健診センター	0	0.0%
未回答	13	13.0%
合計	100	100.0%

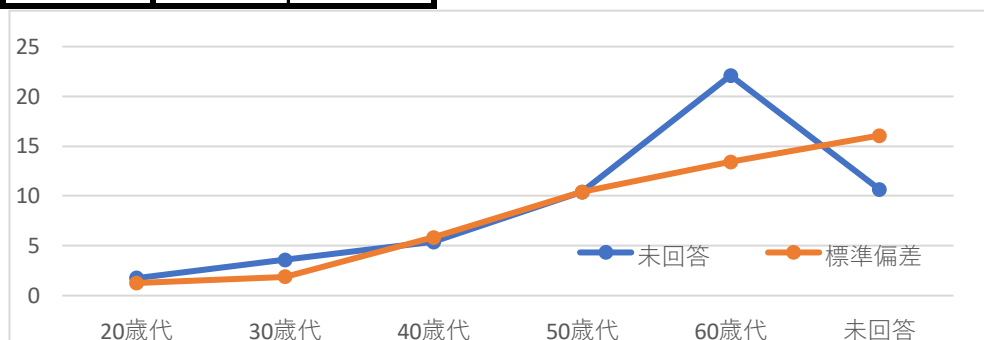
現在の就業先または最後に就業していた施設については、病院が最も多く35名(35.0%)であった。次いで診療所(クリニック)、通所介護7名(7%)、3番目はその他の介護施設、福祉施設、訪問看護、行政、が5名(5%)、であった。昨年3番目であった特別養護老人ホームが減少し、通所介護が上位になっている。その他の介護施設・福祉施設と特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、通所介護、小規模多機能型居宅介護など介護・施設系への就業者は、10名(10.0%)と病院に次いで多い状況であった。

◎以下の調査結果は、現在就業中で今後も同施設にて引き続き就業を継続していこうと考えている41名とその後の調査に回答のなかった3名を除く56名を対象とした。

9.最終の就業施設の年代別勤務経験年数(n=56)

	平均勤務年数	標準偏差
20代	1.25	1.3
30代	1.73	12.4
40代	5.1	6.3
50代	8.7	10.3
60代	14.3	15.3
未回答	12.9	13.7
合計	9.2	12.1

最終の就業場所での看護経験年数は、30代及び60代のばらつき幅が大きい結果となった。短い方は1年以内、最長40年以上までの開きがあった。最もばらつき幅が大きいのは60歳代であり、定年退職後の働き方を検討している方が多いことが推察される。

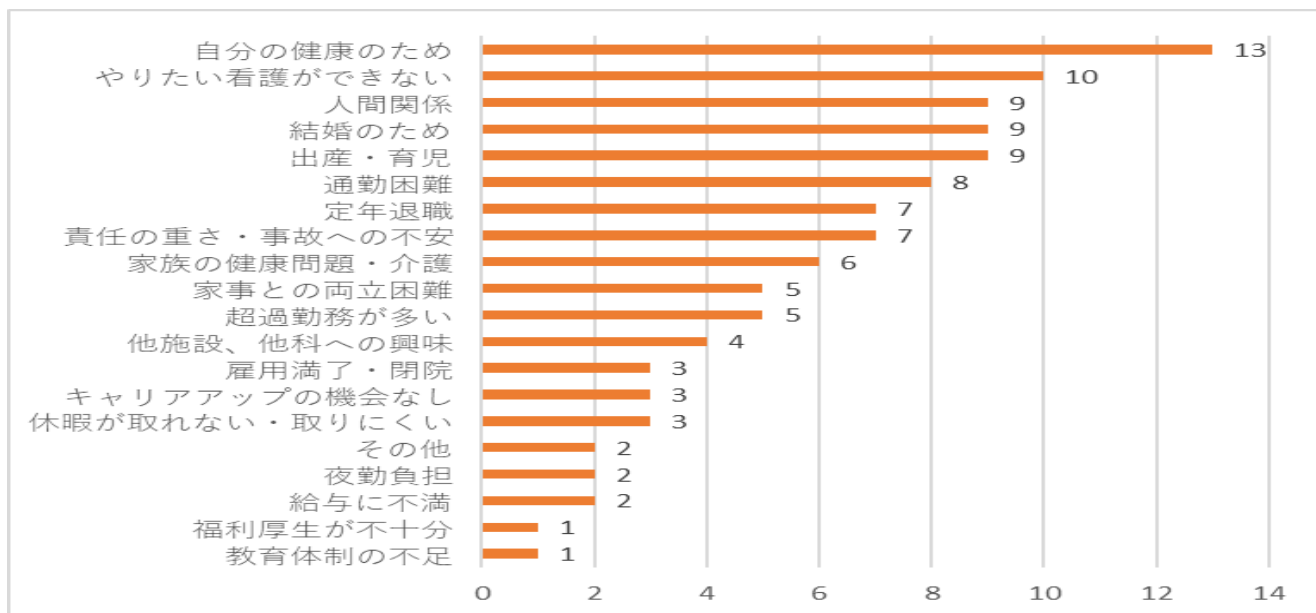


10.最後に就業していた施設の退職・転職を考えた理由(複数回答 n=56)

理由	人数	割合
自分の健康のため	13	23%
やりたい看護ができない	10	18%
出産・育児	9	16%
結婚のため	9	16%
人間関係	9	16%
通勤困難	8	14%
責任の重さ・事故への不安	7	13%
定年退職	7	13%
家族の健康問題・介護	6	11%
超過勤務が多い	5	9%
家事との両立困難	5	9%
他施設、他科への興味	4	7%
休暇が取れない・取りにくい	3	5%
キャリアアップの機会なし	3	5%
雇用満了・閉院	3	5%
給与に不満	2	4%
夜勤負担	2	4%
その他	2	4%
教育体制の不足	1	2%
福利厚生が不十分	1	2%
進学のため	0	0%
分野への興味	0	0%
看護職に向いていない	0	0%
転勤	0	0%
残業の給与反映なし	0	0%
起業した	0	0%
患者からのハラスメント	0	0%

退職や転職を考える理由で最も多かったのは、自分の健康のためで13名(23%)であった(昨年度は2番)。次はやりたい看護ができない10名(18%)(昨年度4位)で上位となっている。昨年最も多かった人間関係は4位となり、退職や転職理由は若干変化している。また、退職・転職を考える理由は多岐にわたっていた。

グラフは次ページ



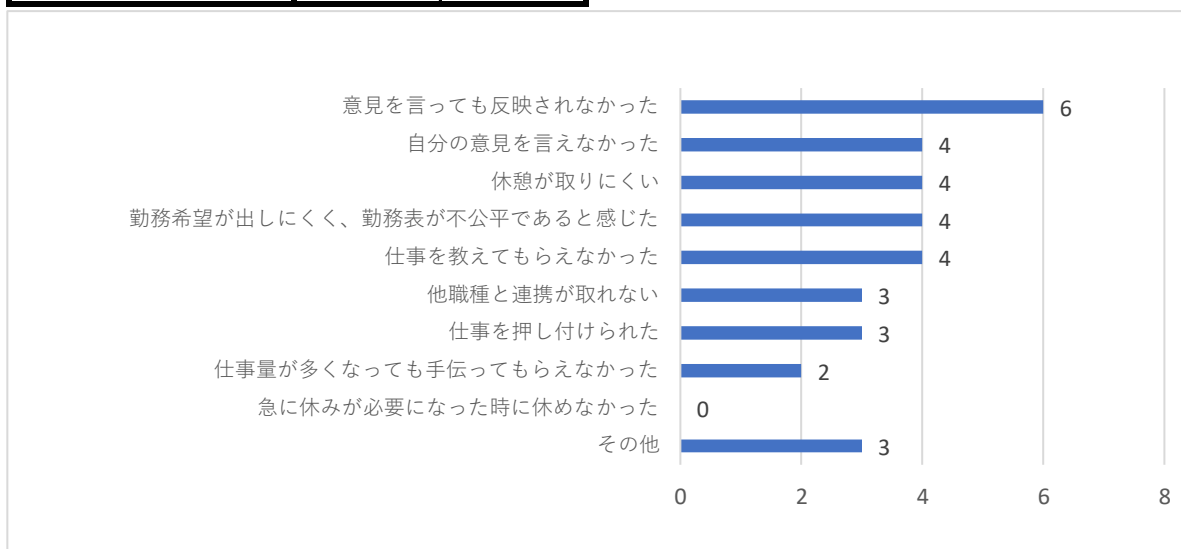
11. 前質問で人間関係と回答した内容 (複数回答 n=9)

内容	人数	割合
意見を言っても反映されなかった	6	66%
仕事を教えてもらえなかった	4	44%
勤務希望が出しにくく、勤務表が不公平	4	44%
休憩が取りにくい	4	44%
自分の意見を言えなかった	4	44%
仕事を押し付けられた	3	33%
他職種と連携が取れない	3	33%
仕事量が多くなっても手伝ってもらえない	2	22%
急に休みが必要になった時に休めなかった	0	0%
その他	3	33%

人間関係の具体的な内容については、意見を言っても反映されないが最も多く、次いで仕事を教えてもらえない、勤務希望が出しにくい、休憩が取りにくい、自分の意見が出しにくいと続き、様々な理由があった。

その他

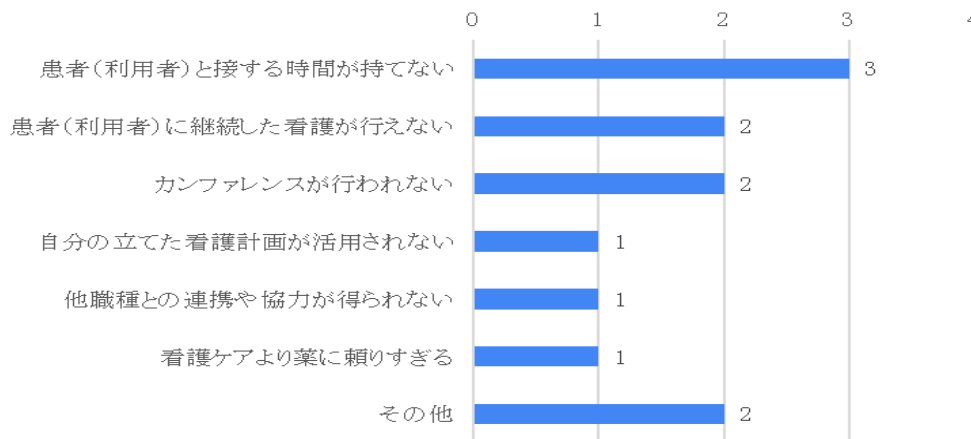
- ・前からいる人に何も言えない環境
- ・特定のスタッフに無視される
- ・病気を伝えてから双方がつかなくなった



12.問10にて やりたい看護ができないと回答した内容(複数回答 n=10)

理由	人数
患者や利用者に継続した看護が行えない	7
患者や利用者と接する時間が持てない	5
新たな知識・技術を取り入れようとする姿勢が所屬	5
カンファレンスが行われない	3
自分の立てた看護計画が活用されない	1
他職種と連携や協力が得られない	1
看護ケアより薬に頼りすぎる	1
その他	3

やりたい看護ができない理由については、患者(利用者)に継続した看護が行えないが最も多く、次いで患者(利用者)と接する時間が持てない、新たな知識・技術を取り入れようとする姿がないとなった。



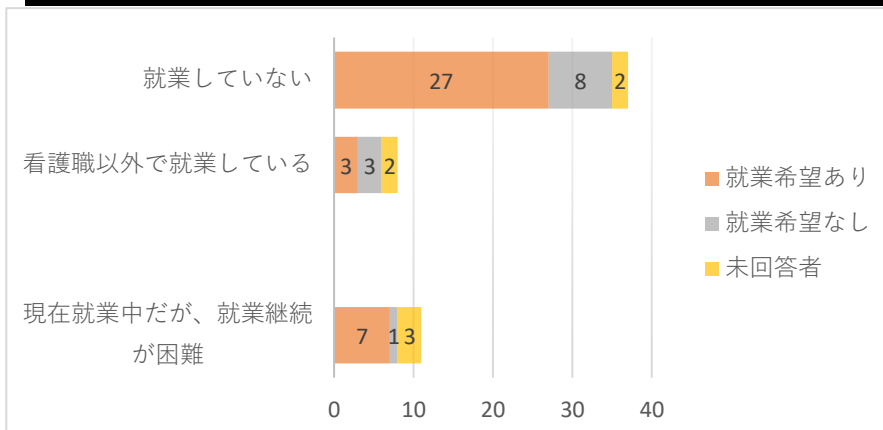
13.未就業の方の概ねの未就業期間(n=37 4名未回答)

	回答者数	平均値	中央値	未回答者数
20代	2	2.8	3	1
30代	5	1.8	1.5	1
40代	11	4.0	4	
50代	5	2.0	1	
60代	9	4.6	2	1
未回答	4	5.3	4.5	
合計	37	3.8	2	39

未就業期間については、平均3.8年で標準偏差2、中央値2年と比較的短期間の方が多い傾向にあった。期間が短くて1年以内、最大23年であった。

14.再就職希望について(n=56)

	就業希望あり	就業希望なし	未回答者	合計
現在就業中だが、就業継続が困難	7	1	3	11
看護職以外で就業している	3	3	2	8
就業していない	27	8	2	37
合計	37	12	7	56



就業していない方の72.9%(27名)が就業希望があると回答。看護職以外で就業している方の37.5%(3名)が看護職としての就労を希望していた。現在就業中の方で就業継続が困難と感じている方11名については、63.6%(7名)が別の施設に就業を希望していた。

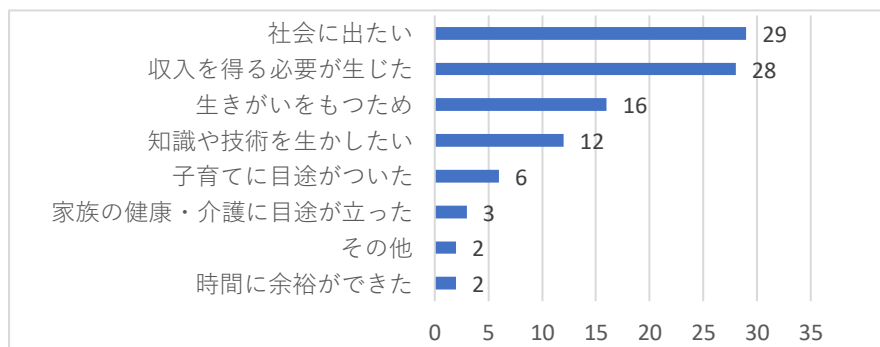
15.再就職を希望する理由(複数回答 n =56)

理由	人数	割合
社会に出たい	29	51.8%
収入を得る必要が生じた	28	50.0%
生きがいをもつため	16	28.6%
知識や技術を生かしたい	12	21.4%
子育てに目途がついた	6	10.7%
家族の健康・介護に目途が立った	3	5.4%
時間に余裕ができた	2	3.6%
学校を卒業した	0	0.0%
その他	2	3.6%

再就業を希望する理由については、「社会に出たい」が最も多く29名(51.8%)であった。次いで「収入を得る必要が生じた」が28名(50%)、「生きがいをもつため」16名(28.6%)であった。昨年度は「収入を得る必要が生じた」が最も多く、次いで「生きがいをもつため」であった。

その他

休憩が確実に取れる、負担が重すぎない就業先にしたい



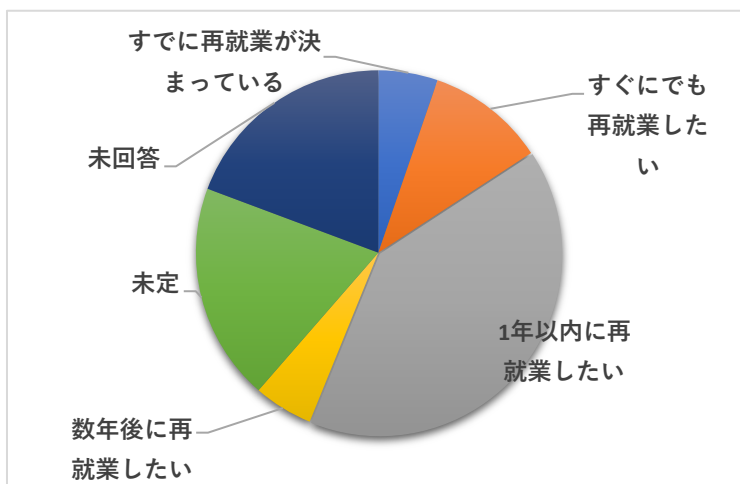
16.希望する再就業までの期間(n=56)

再就業までの期間	人数	割合
すでに再就業が決まっている	3	5.4%
すぐにも再就業したい	6	10.7%
1年以内に再就業したい	23	41.1%
数年後に再就業したい	3	5.4%
学校卒業後再就業したい	0	0.0%
未定	11	19.6%
未回答	10	17.9%
合計	56	100.0%

希望する再就業までの期間は、1年以内が最も多く23名(41.1%)、次いですぐにも再就業したい方と未定の方が11名(19.6%)、であった。

数年後に再就業したい:

2年後	1名
3年後	1名
5年後	1名

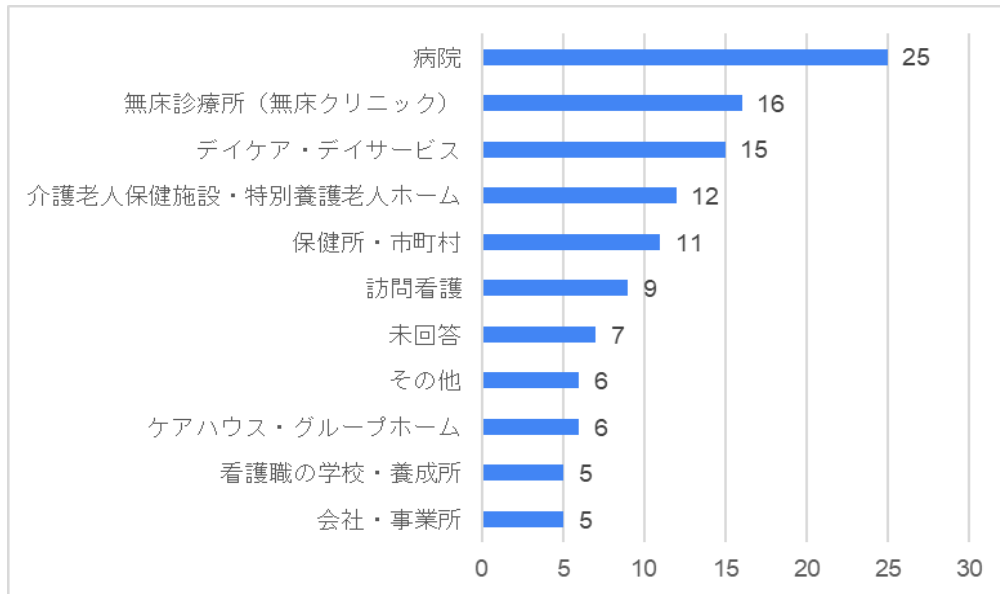


17. 就業を希望する就業先(複数回答 n=56)

希望する勤務先	人数	割合
病院	25	44.6%
無床診療所(無床クリニック)	16	28.6%
デイケア・デイサービス	15	26.8%
介護老人保健施設・特別養護老人ホーム	12	21.4%
保健所・市町村	11	19.6%
訪問看護	9	16.1%
未回答	7	12.5%
ケアハウス・グループホーム	6	10.7%
その他	6	10.7%
会社・事業所	5	8.9%
看護職の学校・養成所	5	8.9%

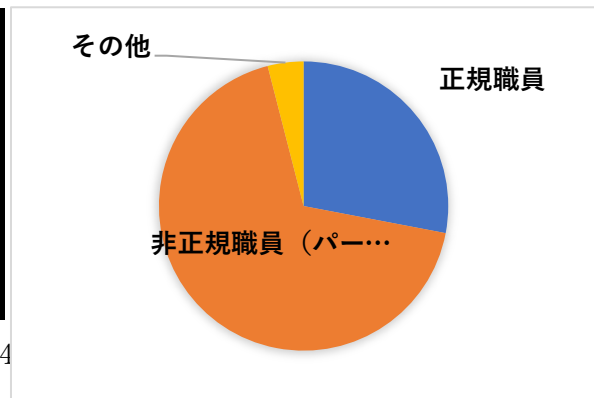
就業希望が最も多かったのは、病院で25名(44.6%) 次いで無床診療所が16名(28.6%)であった。デイケア・デイサービス15名(26.8%) 介護老人保健施設・特別養護老人ホーム12名(21.4%)、順位の変動はあるが希望の多いベスト5は昨年と変わりなかった。

その他:
自分に合う施設を探し中
助産院サポート
子育て支援サポート
美容医療



18. 希望する雇用形態(n=56)

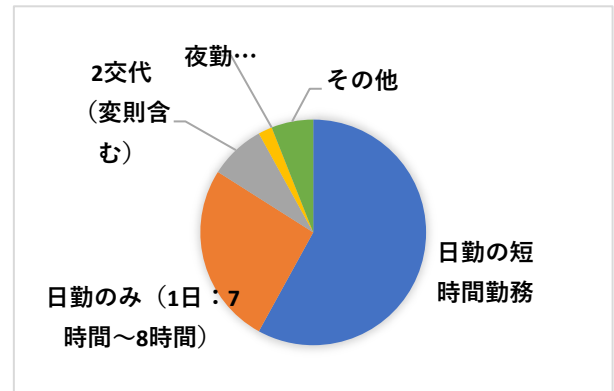
希望雇用形態	人数	割合
正規職員	14	25.0%
非正規職員(パート)	34	60.7%
派遣	0	0.0%
その他	2	3.6%
未回答	6	10.7%
合計	56	100.0%



希望する雇用形態は、非正規職員が最も多く34名(60.7%)で、次いで正規職員14名(25%)となった。

19.希望する勤務形態 (n=56)

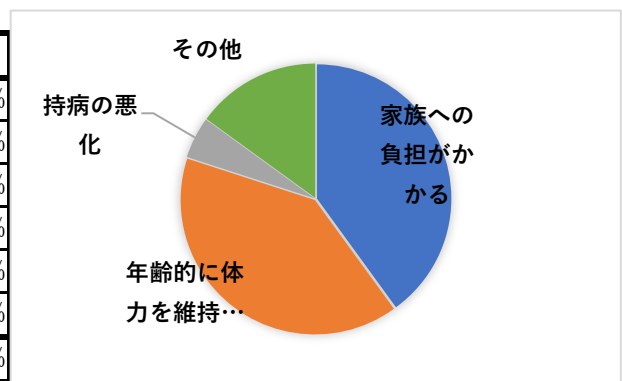
勤務形態	人数	割合
日勤の短時間勤務	29	52%
日勤のみ(1日:7時間~8時間)	13	23%
2交代(変則含む)	4	7%
3交代	1	2%
夜勤のみ	0	0%
未回答	9	16%
合計	56	100%



希望する勤務形態は、日勤の短時間勤務が最も多く29名(52%)で、次いで日勤のみ(1日)13名(23%)と約80%が日勤帯での勤務を希望していた。

20.夜勤が困難な理由 (n=20)

理由	人数	割合
家族への負担がかかる	8	20%
年齢的に体力を維持できない	8	20%
持病の悪化	1	5%
夜間眠らずに仕事をする事への不安	0	0%
その他	3	15%
未回答	0	0%
合計	20	100%

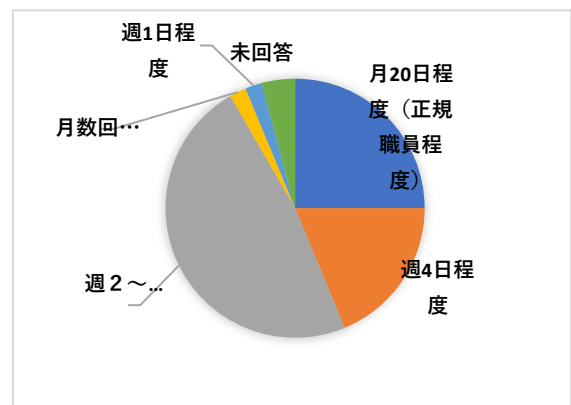


その他: 夜間仕事をする事への不安
夫の協力が得られない(夫も夜勤があり、帰宅が遅い)

夜勤が困難な理由について、最も当てはまるもの1つの回答で多い理由は、家族へ負担がかかる8名(20%)、年齢的に体力を維持できない8名(20%)であり、昨年度とほぼ同じ結果であった。

21.希望する就業頻度 (n=56)

希望就業頻度	人数	割合
月20日程度(正規職員程度)	12	21.4%
週4日程度	9	16.1%
週2~3日程度	23	41.1%
月数回程度	1	1.8%
週1日程度	1	1.8%
未回答	10	17.9%
合計	56	100.0%



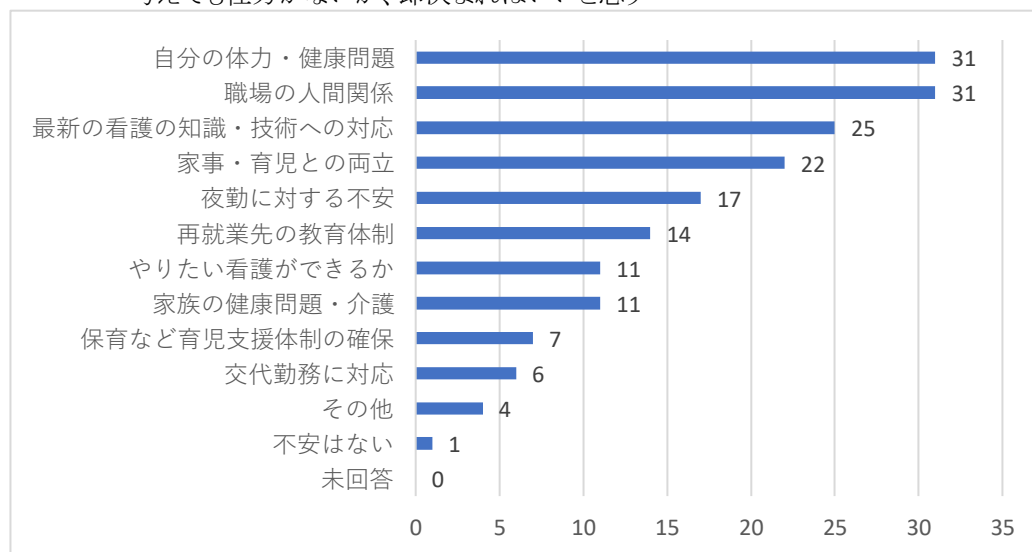
希望する就業頻度については、週2~3日程度が23名で最も多く、次いで月20日程度となっており、昨年度と順位が逆転している。

22.再就業に際しての不安(複数回答 n=56)

不安に思う内容	人数	割合
職場の人間関係	31	55%
自分の体力・健康問題	31	55%
最新の看護の知識・技術への対応	25	45%
家事・育児との両立	22	39%
夜勤に対する不安	17	30%
再就業先の教育体制	14	25%
家族の健康問題・介護	11	20%
やりたい看護ができるか	11	20%
保育など育児支援体制の確保	7	13%
交代勤務に対応	6	11%
不安はない	1	2%
その他	4	7%
未回答	5	9%

再就業に際しての不安について最も多かったのは、職場の人間関係と自分の体力・健康問題31名(55%)、最新の看護の知識・技術への不安25名(45%)、家事と育児の両立22名(39%)、再就業先の教育体制14名(25%)となり、昨年度とほぼ同様の結果であった。

その他:・休憩時間の確保 ・自分の時間を大切にできるか
・考えても仕方がないが、即決まればいいと思う



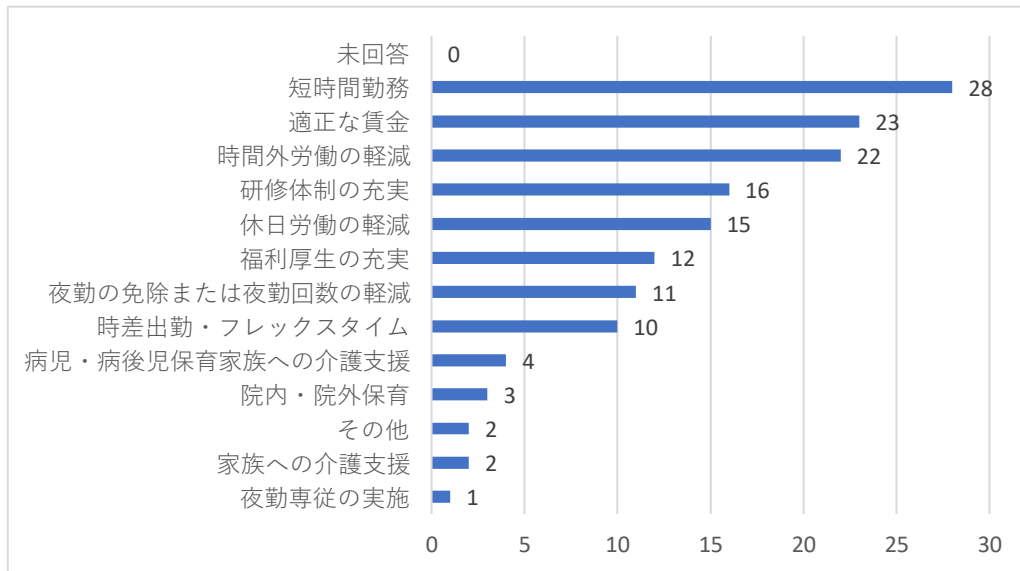
23.再就業する上で重視する支援(複数回答n=56)

支援体制の内容	人数	割合
短時間勤務	28	50.0%
適正な賃金	23	41.1%
時間外労働の軽減	22	39.3%
研修体制の充実	16	28.6%
休日労働の軽減	15	26.8%
福利厚生 of 充実	12	21.4%
夜勤の免除または夜勤回数の軽減	11	19.6%
時差出勤・フレックスタイム	10	17.9%
病児・病後児保育家族への介護支援	4	7.1%
院内・院外保育	3	5.4%
家族への介護支援	2	3.6%
夜勤専従の実施	1	1.8%
その他	2	3.6%
未回答	0	0.0%

再就業する上で重視する支援体制は、短時間勤務28名(50%)、次いで適正な賃金が23名(41%)、時間外労働の軽減22名(39%)、休日労働の軽減15名(27%)、研修体制の充実16名(29%)であった。賃金・働く時間・学び続ける体制の希望がほとんどを占めた。

その他
子供の体調不良時の休暇に融通がきくか
育児休暇の取りやすさ

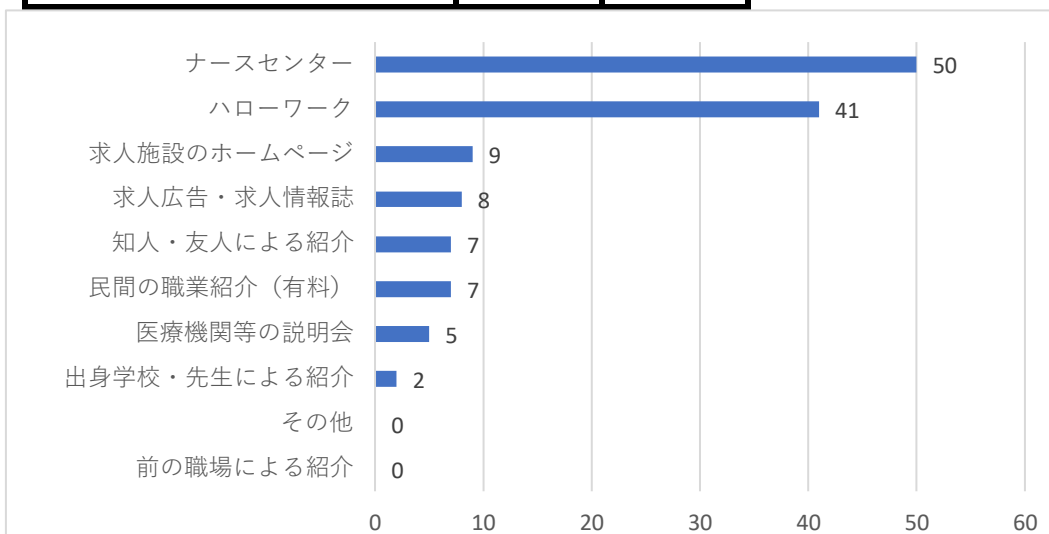
グラフは次ページ



24. 就業先を探す際に利用する手段 (3つまで選択 n=56)

利用する手段	人数	割合
ナースセンター	50	89.3%
ハローワーク	41	73.2%
求人施設のホームページ	9	16.1%
求人広告・求人情報誌	8	14.3%
民間の職業紹介(有料)	7	12.5%
知人・友人による紹介	7	12.5%
医療機関等の説明会	5	8.9%
出身学校・先生による紹介	2	3.6%
前の職場による紹介	0	0.0%
その他	0	0.0%

就業先を探す際に利用している手段については、ナースセンターが最も多く50名(89.3%)で次いでハローワーク41名(73.2%)でこの2つの手段が多数を占めた。求人施設のホームページは、9名(16.1%)、求人広告・求人雑誌が8名(14.3%)であった。



25.就職活動をしているが就業できない理由(複数回答 n=56)

理由	人数	割合
勤務時間・休日が希望と合わない	23	41.1%
自分の技術や能力が求人要件に合うか不安	17	30.4%
希望する業務内容・職場の求人がない	17	30.4%
賃金・給料が希望と合わない	9	16.1%
子どもを預けるサービスが見つからない	8	14.3%
求人と自分の年齢が合わない	7	12.5%
自分の健康に不安がある	7	12.5%
妊娠活動のため	1	1.8%
その他	10	17.9%
未回答	5	8.9%

その他

働きたい病院が距離もあり、冬が心配

孫の世話(孫5人)

介護老人が2人いるため・介護のため 2人

今は家庭生活が一番のため

不採用のため

自宅の近くで働きたいが、合うところがない

妊娠

勤務時間・休日が希望と合わないがいちばん多く23名(41.1%)と昨年度と比較し上位にあがっている。次いで自分の技術・能力が不安、業務内容・職場の求人が合わないがそれぞれ17名(30.4%)、賃金・料金が希望と合わない9名(16.1%)、子供を預けるサービスが見つからない8名(14.3%)となっている。

